

くまもと 野の花 ものがたり

熊本県は、変化に富む豊かな環境に恵まれています。千年の歴史を持つ阿蘇の草原地帯、秘境と呼ばれる中央山地の山岳地帯、複雑な海岸線を有する天草地方など、様々な自然環境のなかに2,300種ほどの植物(種子植物+シダ植物)が生育しています。熊本の自然に生きている植物は、どのような種類もそれぞれの美しさを持っています。私たちがそのことに気づけば「雑草から野の花へ」と変化していきます。そして野の花と私たちの出会いのなかに、それぞれの「ものがたり」が始まります。この「ものがたり」に美しい写真を添えて皆様に楽しんでいただきたいと思います。

さあ、「くまもと野の花ものがたり」の始まりです。

令和元年8月 熊本記念植物採集会

1. カタクリ (ユリ科)

写真・文 河上 昭夫



学生の頃、初めてカタクリに出会ったのは五家荘の雁俣山でした。植物初心者の私には、こんなにも美しい花を咲かせる野生植物があることに驚きました。まさに一目惚れの初恋です。その後中央山地の数カ所でも見ることができました。

「春の妖精」ともいわれる植物で、寒さが残る中、いち早く姿を見せ、2か月後には消えてしまいます。淡緑色で紫斑の光沢のある葉を2枚広げ、その間から長い花茎を出し、その先端に紅紫色の花を一つ咲かせます。6枚の花びらは後ろに大きく反り返り、花は下を向いて咲きます。花を咲かせるため10か月もの長い間、深い地中でゆっくりと準備を進めているのです。熊本では極希なカタクリを大切に見守っていく必要があります。

2006年4月23日 五木村

2. ギンラン (ラン科)

写真・文 岡部 達郎



運動公園そばの神園山遊歩道で見つけました。キンランは、比較的県内各地で出会う機会がありますが、偶然とは言えめったに出会えないギンラン(熊本県:準絶滅危惧)に遭遇できるなんてラッキーと思いました。

華やかな装いのキンランに比べ、高さも花の大きさも小型で清楚な感じのギンランは、遊歩道の中央で「私もここにいるよ」と精一杯その存在を自己主張しているようでした。生えている場所が場所だけに、踏まれわしないか心配していました。2・3日して見に行ったら案の定折れて倒れていました。足下の小さな生き物にも気配りができる人でありたいと決意を新たにしました。

2018年4月25日 熊本市

3. イワガラミ (アジサイ科)

写真・文 山下 桂造



イワガラミはアジサイ科イワガラミ属の植物です。木の幹や岩肌にからみついて上に伸びていきます。ですから通常は下から仰ぎ見ることになるのですが、菊池渓谷では間近に上から見る場所があります。それは、渓谷入り口から200mほど車道を登ったところです。

5月の初旬、イワガラミが沢山花をつけているのに手がとどきます。なんとも清楚な白い花に心奪われます。一度間近で見てください。

2019年5月3日 菊池市

4. ラショウモンカズラ (シソ科)

写真・文 金田 照夫



節から根を出しながら地面をおおうシソ科の多年草です。この花に出会う度に、「むか～しん昔、源頼光ん家来に渡邊ん綱ち云う、あっちあられん強え～奴がおっちい……」と始まる豊後浄瑠璃、羅生門の一節を思い出します。少し前まではネット上でこの語りを聞くこともできましたが、今はどうでしょうか。それにしても、この花を綱が切り落とした“鬼女の腕”に見立てた先人の想像力と古典への見識の高さに敬服します。そして、その後いろいろな奸計を使って腕を取り戻した鬼女のことが気がかりになってきます。

日の良く照る草原では見かけませんが、阿蘇や中央山地の少し薄暗い晩春の林内に鮮やかな青色で存在を主張する様は、確かに鬼の腕のように見えます。

2019年5月12日 南小国町

5. ノヒメユリ (ユリ科)

写真・文 河上 昭夫



天草の海岸から阿蘇の草原まで広く分布しています。天草地方では割と多く見られますが、他地域ではあまり見ることはありません。いわゆるユリの仲間では一番小さな花を咲かせます。花の大きさはわずか3cmほどです。

1mほどの茎の頂端に数個のつぼみが上向きにつきます。つぼみが膨らむと、下から順番に真下に向きを変えて、8月には、花びらが反り返った可愛い赤い花を咲かせます。そして受粉が終わり種子ができてくると、果実は再び上に向きを変えます。熟すと薄い小さな種子を多数風にとばします。もし、時間の流れを早送りできれば、上から下へ、そして下から上へと、ドラマチックな動きを見ることができるとでしょう。

2008年8月6日 南阿蘇村